



2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年8月10日

上場会社名 ポラリス・ホールディングス株式会社
コード番号 3010 URL <https://www.polaris-holdings.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 辻川 高寛
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 兼 最高財務責任者 (氏名) 半田 高史
四半期報告書提出予定日 2023年8月14日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 03-5822-3010

(百万円未満四捨五入)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	2,740	129.8	183		4		33	
2023年3月期第1四半期	1,192	56.1	58		107		120	

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 24百万円 (%) 2023年3月期第1四半期 120百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	0.28	
2023年3月期第1四半期	1.30	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	24,337	3,472	14.2
2023年3月期	24,653	2,911	11.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 3,467百万円 2023年3月期 2,905百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	199.2	2,726		2,134		1,780	233.2	14.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	123,214,389 株	2023年3月期	116,969,189 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	1,674 株	2023年3月期	1,674 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	119,502,094 株	2023年3月期1Q	92,494,732 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「(3)今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等の解消	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、本年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変更され、社会活動の正常化が更に進みました。一方、経済活動の正常化に伴う急速な雇用環境の改善による労働需要の高まりによる人件費の高騰や、ウクライナ情勢や円安などを契機とした資源価格の高止まりなどコスト上昇が引き続き経済活動に重要な影響を与えております。

当社グループのメイン事業が属するホテル業界におきましては、行動制限の解除や円安による国内旅行へのシフト、入国制限の大幅な緩和による訪日外客数の回復により、国内宿泊者数及び外国人宿泊者数はともに新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前の水準に戻りつつあります。観光庁が公表している宿泊旅行統計調査によると、2023年5月第2次速報は、国内全体の延べ宿泊者数は4,926万人泊（2019年同月比△4.2%、前年同月比+33.8%）、その内訳として日本人宿泊者が4,049万人泊（2019年同月比△2.8%、前年同月比+12.0%）、外国人宿泊者877万人泊（2019年同月比△9.9%、前年同月比+1,243.4%）となっております。

このような環境下において、当社の国内グループにおきましては、引き続きレベニュー・マネジメントの強化を進めるとともに、新規店舗の出店や収益拡大の施策に積極的に取り組んでまいりました。具体的には、本年4月に京都府京都市においてKAYA 京都 二条城 BWシグネチャーコレクションbyベストウェスタンの運営を運営委託契約に基づき開始し、ベストウェスタンプランドの各ホテル、KOKO HOTEL Premier 金沢香林坊及びKOKO HOTEL Premier 熊本のレストラン営業を再開いたしました。また、コロナ軽症者療養施設となっておりますKOKO HOTEL 銀座一丁目及びKOKO HOTEL 神戸三宮は本年4月から、KOKO HOTEL 鹿児島天文館は本年6月から通常営業に戻り運営を開始しております。加えてKOKO HOTEL 大阪心斎橋、KOKO HOTEL 名古屋栄及びKOKO HOTEL 福岡天神において客室等の改装工事を実施しており今後の売上向上が期待できます。

その結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、次のとおりとなりました。

売上高	2,740百万円（前年同四半期比129.8%増）
営業利益	183百万円（前年同四半期△58百万円）
経常損失（△）	△4百万円（前年同四半期△107百万円）
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△33百万円（前年同四半期△120百万円）

損益面において、国内事業の売上高は2,307百万円（対前年四半期は1,192百万円）となり、運営ホテル数の増加と稼働率及び客室単価が大幅に改善したことにより大幅な増収となりました。また、前連結会計年度末においてレッド・プラネットブランドにてフィリピン共和国でリミテッドサービスホテルを所有・運営するRed Planet Holdings (Philippines) Limited及びその子会社を連結子会社にしたことにより海外事業の売上高が433百万円加わり、連結ベースの売上高は2,740百万円となりました。

営業利益は、売上高の増加に加え、国内ホテル事業における損益分岐点の低下を進めた結果、国内事業の営業利益は186百万円（前年同四半期営業損失58百万円）と大幅な黒字化を実現いたしました。一方で海外ホテル事業は、国内のホテル需要の回復が進む中、保有ホテル資産等の減価償却費負担が重く、海外事業の営業利益は△4百万円となり、最終的に連結ベースの営業利益は183百万円となりました。

経常利益は、国内事業において経常利益130百万円（前年同四半期経常損失107百万円）と大幅な黒字化を実現しましたが、海外事業において、物価上昇に伴う借入コストの上昇により、当第1四半期連結累計期間において支払利息143百万円を計上したこと等により、経常利益が△134百万円となり、連結ベースの経常利益は△4百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、法人税等合計として26百万円などを計上しております。国内運営ホテルの親会社株主に帰属する四半期純利益は121百万円（前年同四半期純損失120百万円）、海外運営ホテルの親会社株主に帰属する四半期純利益は△154百万円となりました。

セグメント間の取引を含む各セグメントの業績は、次のとおりであります。

ホテル事業は、売上高2,729百万円（前年同四半期比129.0%増）、営業利益268百万円（前年同四半期営業利益7百万円）となりました。主な売上は、ホテルマネジメント売上であります。

不動産事業は、売上高134百万円（前年同四半期比84.3%増）、営業利益64百万円（前年同四半期営業損失△4百万円）となりました。主な売上は、不動産賃貸売上によるものであります。また、当第1四半期連結累計期間において、新潟県加茂市に所在する販売用不動産の売却による不動産売買売上を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、24,337百万円となりました。これは、前連結会計年度末より316百万円の減少であります。主な要因は、現金及び預金の減少223百万円、その他の流動資産の減少266百万円などによるものであります。

負債合計は、20,865百万円となりました。これは、前連結会計年度末より877百万円の減少であります。主な要因は、長期借入金（1年内返済予定を含む）の減少360百万円、その他の流動負債の減少439百万円などによるものであります。

純資産合計は、3,472百万円となりました。これは、前連結会計年度末より561百万円の増加であります。主な要因は、新株予約権の行使に伴う資本金及び資本剰余金の増加538百万円、為替換算調整勘定の増加58百万円の計上などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月15日に公表いたしました業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日発表の「2024年3月期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,283,720	4,060,791
売掛金	1,839,769	1,847,109
販売用不動産	5,857,254	5,830,822
原材料及び貯蔵品	79,156	92,417
その他	1,527,876	1,262,157
貸倒引当金	△724,860	△742,966
流動資産合計	12,862,915	12,350,329
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,046,234	7,175,768
土地	476,590	482,302
使用権資産（純額）	2,040,876	1,979,035
その他（純額）	303,748	305,467
有形固定資産合計	9,867,448	9,942,572
無形固定資産		
その他	29,039	30,847
無形固定資産合計	29,039	30,847
投資その他の資産		
投資有価証券	193,058	190,519
不動産信託受益権	316,416	312,192
敷金及び保証金	930,069	1,004,628
その他	454,273	506,342
投資その他の資産合計	1,893,817	2,013,681
固定資産合計	11,790,304	11,987,100
資産合計	24,653,218	24,337,429

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	390,727	440,883
1年内償還予定の社債	—	934,133
短期借入金	587,200	573,900
1年内返済予定の長期借入金	1,094,687	1,135,215
未払金	1,129,692	1,083,185
未払法人税等	185,931	127,669
株主優待引当金	3,915	3,915
店舗閉鎖損失引当金	151,475	151,475
その他	1,207,419	768,334
流動負債合計	4,751,047	5,218,709
固定負債		
社債	918,366	—
長期借入金	10,453,827	10,053,344
資本性劣後借入金	950,000	950,000
リース債務	3,176,670	3,138,749
長期預り金	1,060,676	1,059,592
退職給付に係る負債	47,398	48,794
資産除去債務	318,623	319,000
その他	66,042	77,208
固定負債合計	16,991,600	15,646,687
負債合計	21,742,647	20,865,396
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,155	281,292
資本剰余金	2,528,713	2,797,850
利益剰余金	366,725	333,478
自己株式	△2,992	△2,992
株主資本合計	2,904,601	3,409,628
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	145	175
為替換算調整勘定	—	57,591
その他の包括利益累計額合計	145	57,766
新株予約権	5,826	4,639
純資産合計	2,910,571	3,472,033
負債純資産合計	24,653,218	24,337,429

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	1,192,320	2,740,109
売上原価	93,262	165,408
売上総利益	1,099,059	2,574,701
販売費及び一般管理費	1,157,056	2,392,153
営業利益又は営業損失(△)	△57,997	182,548
営業外収益		
受取利息	2	6,082
助成金収入	5,038	3,901
為替差益	—	5,414
その他	251	1,975
営業外収益合計	5,291	17,372
営業外費用		
社債利息	—	15,767
支払利息	46,489	183,499
その他	7,398	5,050
営業外費用合計	53,887	204,316
経常損失(△)	△106,593	△4,396
特別損失		
投資有価証券評価損	—	2,585
特別損失合計	—	2,585
税金等調整前四半期純損失(△)	△106,593	△6,981
法人税、住民税及び事業税	13,433	11,747
法人税等調整額	—	14,519
法人税等合計	13,433	26,266
四半期純損失(△)	△120,026	△33,247
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△120,026	△33,247

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△120,026	△33,247
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	30
為替換算調整勘定	—	57,591
その他の包括利益合計	△8	57,621
四半期包括利益	△120,035	24,374
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△120,035	24,374

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(株主資本の著しい変動)

当社は、当第1四半期連結累計期間において、ポラリス・ホールディングス株式会社2021年第1回新株予約権の行使に伴う新株の発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ269,137千円増加しております。この結果、当第1四半期連結会計期間末において、資本金281,292千円、資本剰余金2,797,850千円となっております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	ホテル事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,191,960	360	1,192,320	—	1,192,320
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	72,300	72,300	—	72,300
計	1,191,960	72,660	1,264,620	—	1,264,620
セグメント利益又は損失(△)	6,508	△4,108	2,400	—	2,400

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	2,400
全社費用(注)	△60,398
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△57,997

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	ホテル事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,729,341	10,768	2,740,109	—	2,740,109
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	123,171	123,171	—	123,171
計	2,729,341	133,939	2,863,280	—	2,863,280
セグメント利益	268,222	63,799	332,021	—	332,021

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	332,021
全社費用(注)	△149,473
四半期連結損益計算書の営業利益	182,548

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. その他

(継続企業の前提に関する重要事象等の解消)

当社グループは、前連結会計年度において6期連続して経常損失及び3期連続して営業キャッシュ・フローのマイナスを計上していたこと、また前連結会計年度末時点で財務制限条項に抵触した金融機関借入金90百万円が存在したことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しておりましたが、当第1四半期連結会計期間において、国内ホテル事業の業績回復が確実なものとなり、新株予約権の行使により財務基盤も安定したことから「継続企業の前提に関する重要事象等」は解消したと判断しております。